

人権同和教育研究委員会

1 研究テーマ

「人権を尊重し、あらゆる人権問題を解決する意欲と実践力を身につけた児童・生徒を育てるための指導のあり方」

2 研究内容

(1) 研究授業

- ①期 日 平成22年11月17日(水)
- ②学校名 旭ヶ丘小学校
- ③单元名 「おらあ 学校へ行きてえ」
- ④学 年 5年敬組
- ⑤授業者 望月 道夫 教諭

(2) 研究内容

① テーマにかかわって

「同和教育」と呼ばれていたときから現在に至るまで「人権問題を解決する意欲と実践力」をどう身につけていくことができるのかは、最も重要な課題のひとつとなってきた。かつて、「知識だけ身につけていても、実行が伴っていない」という反省から、知識のみではなく、「人権感覚」を育てることが肝要ではないかという視点が生まれた。また、「児童生徒に差別の現実を示しただけでは、その現実の厳しさに下を向いてしまうことがある」という反省から、「明るい展望が持てる同和教育」という発想が生まれ、差別とのたたかいに視点をあてた授業実践が展開された。更に授業形態として、児童生徒がただ座って教師の話を聞き、感想を書くといった教師主導の授業ではなく、児童生徒自らが参加体験していく形態が模索されていくことになった。一方で、差別を「関係」としてとらえたとき、その「関係」をどう望ましいものにしていくかという実践や、「自尊感情」という個々人の内面に目を向けた実践が行われるようになっていく。

こうした経過を振り返るにつけ、本テーマの重要性を再認識するとともに、今後の人権同和教育を更に進展させる上で継続が必要なテーマと考えた。

② 本年度の研究課題にかかわって

本年度の人権同和教育研究委員会では、昨年度までの研究の成果を踏まえた上で、研究の角度を変えて研究を進めてきた。昨年度は、「自尊感情」「発達段階と自尊感情」「コミュニケーション力」という視点から、学級の実態に即した題材や授業展開について研究してきたが、今年度は、小中学校の各校に共通し、かつ小中の連携を踏まえた指導過程に焦点をあてることにした。その大きな理由は、現在須坂市では「須坂市人権同和教育指導計画」を改訂中であり、改訂予定の実践計画を試行することで、来年度からの実践の充実をめざしたからである。

各学校現場からの課題としてあがってくることは、各学校・学級の実態にあった実践をどう作り出していくのかということの一方、年間を通しての目安となり、年度が変わっても共通して取り組める指導計画をどうしくんでいくかということであった。毎年人権同和教育の月間や旬間などを前